

件 名	令和5年度 第1回 福井市障がい者自立支援協議会（全体会）報告書		
日 時	令和5年5月30日（火）10:00～11:30	会場	福井市旭公民館
出席者	別紙（委員名簿） ※欠席者：平谷氏、吉村(宜)氏⇒代理：北山氏		
次 第	1. 開会 2. 委員紹介 委員名簿 3. 福井市障がい者自立支援協議会について 資料1—1、2 4. 会長の選出 5. 議事 (1)福井市障がい者自立支援協議会設置要綱の改正について 資料2—1、2 (2)令和5年度各専門部会・相談支援事業所連絡会の取り組みについて 資料3 (3)令和5年度運営会議における協議について 資料4 6. その他 ・相談支援事業の評価について ・「第7期障がい福祉計画」及び「第3期障がい児福祉計画」について ・ふくい嶺北成年後見センターの講座について 参考資料		
議 事 ・ 質疑等	4. 会長の選出 【吉村氏】 相談支援事業所連絡会の代表を推薦したい。 理由としては、相談支援専門員は色々な方と関わっていて色々な資源を知っている。色々な提案もされてまとめている印象がある。 【司会】 拍手で可否を問う。拍手多数により承認を確認。 【会長・望月氏】 就任のあいさつ後、議長として議事進行。 5. 議事 福井市障がい者自立支援協議会設置要綱の改正について 資料2—1、2 【事務局（濱口）】 運営会議は協議の場で実際参加していたのは、各専門部会の部会長、連絡会の会長、場合によっては学識経験者。事務局として障がい福祉課と委託の事業所が参加し自立支援協議会を円滑に運営していくため話し合いをしてきた。その中で協議だけではなく、全体会で決まったことを円滑に動かすための小さなことを決定していく必要が出てきた。重要な事項については全体会に回っていき決定していく。軽微な事項に関しては、運営会議に会長も参加した形で決定してはどうかという話になった。 【山崎氏】 望月氏が会長になったので、相談支援事業所連絡会の方がいた方がいいのではないかと。自立支援協議会の会長と各専門部会の部会長とは役割が違うのではないかとと思うので、今後、会長が部会長から選ばれた時には、不在であると明記しておいた方がいいのではないかと。 【事務局（濱口）】 相談支援事業所連絡会は部会の位置付けではない。協議会として全体の在り方も検討する必要があるかと思うので、今の意見を踏まえて、協議していきたいと思う。 【吉村氏】 運営会議の中で個別支援における課題の集約及び整理と書いてあるが、ここの個別支援は何を示しているのか。個別調整会議に出た個別支援の内容のことか、福井市民		

<p>議 事 ・ 質疑等</p>	<p>の声なのかを話し合っていないといけない。</p> <p>【事務局（濱口）】</p> <p>事務局としては、個別調整会議であがった個別支援における課題等の集約及び整理という形で認識しているが、市民としての個別支援における課題等も整理が必要とあればこの中で整理しようと思う。</p> <p>【山崎氏】</p> <p>福井市民からの声というところから、個別調整会議は相談支援専門員が付いた状態が多いのかと思うが、サービスを使っていない方が結構いる。そういった人の声を聞くと言うのは「福祉総合相談室よりそい」という選択もあるが、障がい福祉課窓口では申請とか来る方が多いかと思う。そこにアンケート用紙を置いて「障がいがあるがなかろうが住み慣れた地域で暮らす」障がい者理念実践が本当にできているのかどうか、アンケートを取ってほしい。</p> <p>【事務局（濱口）】</p> <p>市民の声というのは前年度も議題にあがっていた。当事者の声が自立支援協議会に吸いあげられていないのではないかな。居宅生活支援部会には、実際に当事者の委員が3名参加しているが充分ではないと、昨年度の自立支援協議会の中でも話があった。今後、自立支援協議会に市民の声があがっていくという仕組みを考えていきたい。</p> <p>令和5年度各専門部会・相談支援事業所連絡会の取り組みについて 資料3</p> <p>【居宅支援部会】</p> <p>主な取り組み方針としては「障がい者福祉人材の育成・確保について」と「障がい者の地域理解促進について」。「障がい者の地域理解促進について」は地域移行・地域定着部会がやってきた取り組みと連携して、協働でアクションできたらと模索している。この部会は幅が広い。障がいが多岐にわたっており、一つの部会で一年通してテーマを決めて取り組んでいくと言うのは難しい部会と実感している。</p> <p>【こども部会】</p> <p>ハンドブック作成については、内容や使い方等を障がい福祉課と一緒に検討している。色々な方に意見をもらい、毎年更新していきたいので、携帯で読み取ってもらい活用してほしい。強度行動障がいの支援体制については、子どもの予防的視点と現状をどうしていくかの視点で、グループワークをした。予防的な事では、福井市内の教職員に強度行動障がいの周知の研修開催。今年度は「強度行動障がいとは」「対応の仕方について」等を福祉の視点で話したい。「移行支援」については高校3年生になってからでは難しい子どももいるので、早い段階から教育・医療・福祉の三者が顔を合わせて支援のあり方を探して繋ぐ事ができないかと話した。この事を家族にも周知していきたい。また、こども部会のメンバーとして、今年度からは県の高校教育課も参加するので連携を図っていきたい。幅が広いと言うのはこども部会も同様で、年間ワーキングは20回位開催している。</p> <p>【就労支援部会】</p> <p>今年度の取り組みは4つある。「就労支援ガイドブックの更新」：就労支援ガイドブックは誰でもホームページからダウンロードできる。今秋頃アップロードの予定。「特別支援学校実習の日程共有について」：今年度から、各学校の電話番号の下に、進路指導担当の名前を記載したので紙面で分かる。「ネットワークミーティングの開催について」：全事業所対象に繋がれるコミュニティの場になり、研修企画や事業所間の日頃の悩みなどの相談、支援のあり方、利用者にとって何が必要か等の情報共有化を図っている。「合同説明会について」：2018年12月に開催したのが最終。</p>
--------------------------	---

議 事 ・ 質疑等	<p>進路指導担当者には一度に色々なブースを回ることができるのいいと言われていた。出前講座もあるといいという意見もあった。今年度は4年ぶりに就労をメインとして開催の予定。課題も多くあり、課題解決に向けた提言等のご意見をいただきたい。</p> <p>【地域移行・地域定着部会】</p> <p>長年病院や施設にいる障がい者の中には外に出たいと思っている人は少ない。そういう人達が地域で暮らす支援をしていきたい。病院や施設にアンケートを実施したところ、地域移行を希望いる方が166人、希望していない方が631人いた。地域移行が必要な方が合計800人位いることになる部会としては捉えている。その方々をどうするかということで、「アンケート作成・実施・回収分析」・「研修開催」※病院や施設職員対象とした広報活動・「ピアサポート」・「地域理解促進」の4つのグループで実施。講師に呼んでももらえれば出向きたい。昨年度はコロナがあったので依頼はなかったが、今年度はやっていきたい。</p> <p>【相談支援事業者連絡会】</p> <p>4つのランチグループに分かれている。連絡会は5回だが、毎年ワークショップを開催している。災がいに関して年に2回、就労支援部会やこども部会で連携の誘いがあると、相談支援事業所に周知している。主任相談支援専門員が増えたのでミーティングも今年度から行いたい。医療的ケア児コーディネーターも増えたので連絡会、協議会等も作りたい。</p> <p>【紅谷氏】</p> <p>こども家庭庁ができたことで、検討していることはあるか。</p> <p>【吉村氏】</p> <p>色々な所が変わっていく、部会の内容もそれに合わせて変えていく。事務局と話している。どういう流れになるかは事務局から教えてほしい。</p> <p>【事務局（濱口）】</p> <p>福井市では、こども家庭センター準備室にて、来年度のこども家庭センター設置に向けて、主に母子保健、子育て支援、児童虐待などの要保護児童への支援も含めた一体的な形となるよう考えて準備をしている。その中に障がい児がどこまで含まれ、障がい福祉と連携していくかについては庁内で協議している。障がいという事で、大人に繋がっていくという部分で連携していくところが大きくなる。自立支援協議会ではこども部会もどの部分を話していくかになるが、現状ではまだ明確にお示しできない。</p> <p>【紅谷氏】</p> <p>こども家庭庁の立ち上げの委員会にも参加しているが、障がいがあるからということで、このタイミングで分けてしまうと50年・70年、子どもの中に障がい児が含まれなくなるので、その辺りも議論してほしい。自立支援協議会では、医療的ケア児に対しては継続的に議論できる体制を残していただきたい。医療ケア児も保育園や学校に行って、就職して結婚していくはずだが、福井県は医療的ケアの中核を担うセンターも医療機関に委託しており、医療に偏った体制になっている。福井市においては医療的ケアに関する体制についても継続的な議論を期待する。</p> <p>【吉村氏】</p> <p>県の自立支援協議会での話は全く知らない。話はどこかでしているはず。これを見直していきたいとこども部会で話している。こども部会で集約して本当に必要なのかどうか、もっと必要な事があるのではないかと話をしているが、どこまでやれるかは分からないがなるべく伝承していきたい。</p>
-----------------	--

<p>議 事 ・ 質疑等</p>	<p>【望月会長】 医療ケア児コーディネーターとして登録し、全国の研修にも参加している。全国的にも進んでいるところと、まだまだというところがあり、福井県はまだまだというところ。関わっていくと、実際に何が必要か見えてくる。各部会でもワードとして、医療的ケア児の支援をどうするかを事務局レベルでいいので協議してほしい。</p> <p>【北山氏】 医療的ケアが必要な方が在宅で生活していくにはサポーターが必要。サポーターが医療的ケアをできなければならないのが課題。ALSの方の窓口は県になっており、ヘルパー等が研修を受ければ喀痰吸引等が可能だが、色々なしがらみで企業等の理解が難しい現状である。</p> <p>【山崎氏】 子どもに障がいがある、病気があるということでPTA会長になった方がいる。小学校は特別支援学校に行っていたが、最終的に普通学校に行き、子どもが口答えをするようになった、自分の意見を言うようになったことが良かったとのこと。分離教育も必要な人、必要でない人がいる。</p> <p>【小柏氏】 自立支援協議会の存在を高めると言う話があったが、福井市社協もできることはまだまだある。住民への理解と促進と言う部分でリンクできるので、年に1・2回は実施していきたい。</p> <p>【山崎氏】 就労継続支援（B型）に10年以上通っている方がいる。毎日休まずに6時間働いて工賃が1～2万円。障がい者が一般企業に行く時の課題を教えてほしい。人の尊厳を守るためには、虐待と貧困の二つをクリアしないといけない。工賃が安いので貧困に結びつく。就労支援部会でも取り上げてほしい。</p> <p>【紅谷氏】 強度行動障がい児・者について2次障がいに至った方をどうするか、どう予防するのか。</p> <p>【吉村氏】 教育関係者に強度行動障がいの事を知ってもらう機会を持たせてもらう。それがどういう原因で起こってしまうのか、どう対応していくのかを皆で考えて作って行けたらと思っている。</p> <p>【紅谷氏】 対策という枠だけにすると、起こった時にどうするかという受け取り方をするのはないか。予防と言う言葉をしっかりと打ち出し、理解していってもらいたい。</p> <p>令和5年度運営会議における協議について 資料4</p> <p>【事務局（濱口）】 2. 令和5年度における主な協議内容 (1)令和3年度から引き続き行う。 (2)相談ミーティングにおいて当事者団体等への聞き取り調査を引き続き実施。 (3)医療的ケア児者についても、自立支援協議会でもどうすべきか、あり方を検討し、3年間の中に大きく取り上げていく必要がある。</p> <p>3. 年間スケジュール：全体会を3回予定している。</p> <p>【望月会長】 市の方にも医療的ケア児・者推進協議会があると聞いている。現行の役割は何か。</p>
--------------------------	---

	<p>【事務局（濱口）】</p> <p>市として協議会を平成30年度に立ち上げている。医療従事者・関係する福祉事業所等が参加し協議しているが、自立支援協議会との関係性はない。障がい福祉課が事務局として立ち上げている協議会である。</p> <p>【坂口氏】</p> <p>各部会は第三者的に見たところ、一般市民の方がどう感じているのかというところから調査した方がよいのでは。例えば、地域移行とかネットワークとなると、当事者だけではなく、地域などの周りの人はどう感じているのか、そこをどう変えていくのか、という所も今後検討していかなければいけないのではないかと。見方を広げてやっていくことが、次に繋がるのかなと感じた。私の方は地域ネットワークなどを主な研究テーマとしているので、この会にも生かさればと思っている。</p> <p>【奥谷氏】</p> <p>強度行動障がいの予防の視点が大事で、教育の場での研修をしているが、「強度行動障がいは障がいだから治らない」という発言をする人がいた。まずはそこからだと実感した。環境によってもあるので、青年期、思春期に強度行動障がいが発生する可能性が高いと言われている。その発生を緩やかにするということができれば、サービスを使うことへの制限が少し減るのではないかと。国の研修が、教育の方も入れるというように、少し変わってきている。県の自立支援協議会の動きが分からないという話があったが、連携ができるように縦の行き来ができるといいと思う。</p> <p>【望月会長】</p> <p>県との連携を進めて行きたい。こども部会を中心に県の障がい福祉課とやり取りができたと思う。強度行動障がいに関しては3歳から5歳までのかわりか、その子の強度行動障がいの発生に影響があるという見方もあると聞いているので議論していきたい。</p> <p>先ほどの議事3つの承認をまとめて図る。⇒拍手多数をもって承認。</p>
<p>その他 報告 ・ 質疑等</p>	<p>・相談支援事業の評価について</p> <p>【事務局（牧野）】</p> <p>委託の相談支援事業所の評価に関して委員会改正もあり、議題も多いため、1回目の報告を見送り、6月中には事務局からの報告に、意見等をお願いしたい。</p> <p>・「第7期障がい福祉計画」及び「第3期障がい児福祉計画」について</p> <p>【事務局（宇野）】</p> <p>第7期福井市障がい福祉計画・第3期福井市障がい児福祉計画 参考資料</p> <p>1. 計画の位置づけ、2. 計画期間について、今後、事業者アンケート等を踏まえ、数値目標や計画案をまとめていき、当事者の方や支援機関等の現場からの意見を反映していくため、自立支援協議会には次回会議で数値目標や計画の草案を提示するので意見をお願いしたい。</p> <p>【吉村氏】</p> <p>目標の設定、方針を定めるとなっているが、ここに書いてあるものを皆で目指していこうということを定めていくということなのか。令和3年度に6期が出ていて令和5年度で終わるが、実情とどれだけズレがあるのかを検証するのか。</p> <p>【事務局（宇野）】</p> <p>そのとおり。今後もしていく予定。</p>

その他
報告
・
質疑等

【吉村氏】

どういうことを目指しているのか、ぜひ出してほしい。福井市としてどういう施策を求めてどのような方針でいくのか。障がい児の事業所の数も増えている状態、障がい児通所支援を利用する子どもが増え、何か目標がないと止まらない。それに向けて取り組んでいかないとずっと使い続けることになり、終了した後、地域に出て誰にも見守られないまま大人になっていく。どのように支えていくのかを、踏まえて盛り込んでもらいたい。自立支援協議会として何ができるのか、どういった手伝いができるのかを伺いたい。また、自立支援協議会の改選時期に福祉計画を策定するというのに理由はあるのか伺いたい。第6期の時に何も分からないまま承認をして3年間。やっと理解した時にあの計画は何か見返している。

【事務局（西田課長）】

計画の内容に関して：概要は国の主導で作成。国が分野を定めて指標を示すが、市としてアンケートや推移等を勘案して数字を出していくもの。二つの計画は方針かつ目標を定めて進んでいくものである。計画そのものは基本的な考え方を示し、それを実現するための具体的なものまでは現在含まれていない内容として考えているので了解いただきたい。こちらから意見を聞くときには実際の現場、あらゆる視点から意見をもらいたい。

委員改選時期と計画の策定期間が同じなのは、まったくの偶然であり、計画の策定は国が定めているので、必ずこのタイミングになる。

【望月会長】

3年前にも同じで、色々意見を言ったが何の反映もなくそのまま計画になったので、何だったのかと思っている。障がい児通所支援事業所と就労継続支援（B型）事業所が爆上がりしていた。子どもが300人増えると言うので、計画は誰が立てるのかと質問した。それは現場の意見を聞いて作った計画とは思えない。数字に反映ができないのであれば、内容についてだけでも、現場の職員が参加している自立支援協議会をうまく使ってほしい。

・ふくい嶺北成年後見センターの講座について

【小柏氏】

福井市、嶺北の市町から委託を受けて昨年度から立ち上げている。成年後見制度の利用支援や講座を設けている。市民講座として市民後見人を養成し、ゆくゆくは裁判所から選任できる人を養成していく事業を今年度実施する。成年後見出前講座として、親亡き後の成年後見の利用の仕方等の講座、色々なテーマで一般市民の方、福祉や医療、教育の方々への出前講座をするので、声掛けをお願いしたい。出前講座は無料。

・その他

【山崎氏】

一般市民の自立支援協議会の傍聴は可能か。

【事務局（濱口）】

事業所の方にも発信してほしいということもあり、今年度は発信したところ。

一般市民も傍聴可能であり、ホームページにも議事録等を公開している。